第４章　職業統合的学習と就業観

椿　　明　美（札幌国際大学短期大学部）

１．研究の枠組み

本章では，図４－１に示すとおり，職業統合的学習（WIL）を大学の学習活動として実施されているインターンシップ，資格実習だけではなく，近似体験として海外経験，専門に関係するアルバイトを含めて，その取り組み状況を分析する。PBL，サービス・ラーニングなども近似体験としての職業統合的学習（WIL）と言えるが，今回の調査では外すこととした。

また，インターンシップ体験が学生の進路意識・就業観にどのように影響を与え，さらには大学への満足度を規定している要因として職業統合的学習（WIL）と卒業生の満足度の相関関係について分析をする。

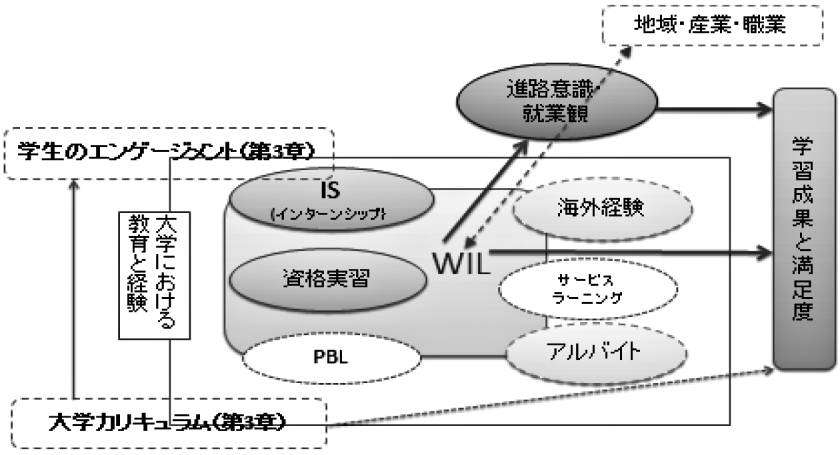

図４－１　分析の枠組み

２．職業統合的学習（Work Integrated Learning：WIL）とは

現在，大学における社会への移行を促す学習活動として，多様な形態のインターンシップや，インターンシップと同等の効果を発揮する多様な取組の推進について検討されており，ワークショップやPBL，地域フィールドワーク，共同研究プロジェクト，特定の資格取得を目的として実施する実習，サービス・ラーニングなどが期待できるものとして挙げられている。そして，これらを，「職業統合的学習（Work Integrated Learning: WIL）」という包括的な概念として捉えられている[(1)]。

「職業統合的学習（以下：WIL）」とは，「目的を持ってデザインされたカリキュラムの中で理論と職業実践とを統合したアプローチおよび戦略の総称」（Patrick et al.2009）であると定義づけられ，カリキュラムを中心に据えているものであるとしている[(2)]。すなわち，各専門分野の学問体系に基づく大学教育のカリキュラムと職業実践とを統合させた学習で，大学での学習と関連することが必須である

ことが重要な点とされている[3]。

本報告書では，WIL の観点から，国家資格取得を目的として実施する資格実習と，大学教育と関連するインターンシップ，大学教育と関連するアルバイト，加えて海外留学に焦点をあて，これらを WIL 経験として総合的満足度との関連性について分析をする。

３．さまざまな職業統合的学習（WIL）および近似体験

3-1. インターンシップ（４分野）

3-1-1. 大学におけるインターンシップ・実習制度の充実

「観光」,「人文・ビジネス」,「国家資格（福祉・保育）」,「国家資格（栄養士・管理栄養士）」の４分野における「インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業経験」は，大学内で制度としてどの程度充実していたのかを表４－１で見ると,「充実していた」（４＋５）は,「観光」38.3%,「人文・ビジネス」29.7%,「国家資格（福祉・保育）」48.8%,「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が52.1%と，国家資格系の２分野ではほぼ半数が,「充実していた」と答えており，他の２分野と比べ有意差が見られた。

また,「充実していなかった」（１＋２）を見ると,「観光」28.3%,「人文・ビジネス」30.3%で,「国家資格（福祉・保育）」20.3%,「国家資格（栄養士・管理栄養士）」21.7%であり,「観光」,「人文・ビジネス」が，国家資格系に比して充実していなかったと答える割合が高かった。

表４－１　インターンシップなど仕事現場や地域での実習や就業制度の充実

（%）

分　　野	1 全く充実していなかった	2	3	4	5 とても充実していた	計	*n*
観光	10.0	18.3	33.3	30.0	8.3	100.0	*60*
人文・ビジネス	10.9	19.4	40.0	20.6	9.1	100.0	*330*
国家資格等（福祉・保育）	3.6	16.7	31.0	26.2	22.6	100.0	*84*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	4.3	17.4	26.1	30.4	21.7	100.0	*46*
計	9.0	18.7	36.5	23.5	12.3	100.0	*520*

3-1-2. インターンシップ・実習など就業経験への取組状況

インターンシップや実習といった就業経験に対する取組状況をみると，表４－２が示すとおり，特に「熱心に取り組んだ」（４＋５）は,「観光」34.5%,「人文・ビジネス」27.2%,「国家資格（福祉・保育）」51.9%,「国家資格（栄養士・管理栄養士）」62.2%で，国家資格系は熱心に取り組んだ割合が高く，他の２分野と比較して明確に有意差が見られた。なかでも「人文・ビジネス」は３割を切っており，制度の充実も低く，熱心に取組んでいない点で特徴的である。

また，インターンシップや実習等を「全く経験しなかった」とした者は,「人文・ビジネス」が33.5%で３人に１人が実習や就業経験をしていなかった。

表４－２　インターンシップなど，仕事現場や地域での実習や就業経験

（%）

分　　野	0 経験がない	1 熱心に取り組まなかった	2	3	4	5 熱心に取り組んだ	計	*n*
観光	12.1	5.2	12.1	36.2	22.4	12.1	100.0	*58*
人文・ビジネス	33.5	8.6	9.6	21.1	13.7	13.5	100.0	*394*
国家資格等（福祉・保育）	4.9	2.5	12.3	28.4	21.0	30.9	100.0	*81*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	11.1	0.0	2.2	24.4	20.0	42.2	100.0	*45*
計	25.6	6.7	9.7	23.9	16.1	18.0	100.0	*578*

3-1-3. インターンシップと専門分野の関係

インターンシップ参加者が82サンプルと少ないため，限られた中での結果であるが，インターンシップは専門分野と関連があったのかどうかを表４－３でみると，「全くあてはまらない」(1)，「よくあてはまる」(5) の五件法で「インターンシップの内容は，在籍していた学科・専攻と関連していた」の問いの平均値を算出してみると，「観光」4.18で最も高く，他は「国家資格（福祉・保育）」，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は共に3.00，「人文・ビジネス」2.44であった。「観光」は，専門分野と関連性のあるインターンシップ経験をする機会が高く，「人文・ビジネス」は最も低かった。

ここでは，「観光」という専門性の明確な分野と「人文・ビジネス」という大学教育での専門と職業が結びつきにくい分野との差が明確に見られた。

表４－３　インターンシップと専門分野の関係

（平均値）

分　　野	インターンシップの内容は，在籍していた学科・専攻と関連していましたか	*n*
観光	4.18	*11*
人文・ビジネス	2.44	*63*
国家資格等（福祉・保育）	3.00	*6*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	3.00	*2*
計	2.73	*82*

3-2. 海外経験（海外研修や留学）（４分野）

3-2-1. 海外研修や留学のための制度

「ギャップターム」を利用することにより海外や長期間でのインターンシップなどの多様な活動も主体的学習として期待されている。海外研修や留学の機会や指導について，WIL との比較，関連性を見るため，大学側が用意する制度が充実していたのかを，表４－４で分野別に分析する。「充実していた」（４＋５）は，「観光」で44.1%，「人文・ビジネス」は24.2%，「国家資格（福祉・保育）」が29.6%，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」はゼロであった。

また，「充実していなかった」（１＋２）と答えたのは，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」71.8%で最も高く特徴的である。

表４－４　海外研修や留学のための機会や指導

（%）

分　　野	1 全く充実していなかった	2	3	4	5 とても充実していた	計	*n*
観光	5.1	11.9	39.0	32.2	11.9	100.0	*59*
人文・ビジネス	14.8	20.5	40.5	13.0	11.2	100.0	*331*
国家資格等（福祉・保育）	21.0	18.5	30.9	18.5	11.1	100.0	*81*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	52.2	19.6	28.3	0.0	0.0	100.0	*46*
計	18.0	19.1	37.7	14.9	10.3	100.0	*517*

3-2-2. 海外経験（海外研修や留学）への取組状況（４分野）

海外研修や留学に，どの程度熱心に取り組んだのかを表４－５で見ると，「熱心に取り組んだ」（４＋５）は，「観光」32.7％で，「人文・ビジネス」は19.9％，「国家資格（福祉・保育）」13.8％，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」０％であった。また，「経験がない」が，「観光」29.3％，「人文・ビジネス」54.1％，「国家資格（福祉・保育）」61.3％で，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」77.8％であった。「海外研修や留学の経験」は，観光が高めで，国家資格系は低い傾向が見られた。「人文・ビジネス」も半数以上が経験をしていない。

表４－５　海外研修や留学への取組

（％）

分　　野	0 経験がない	1 熱心に取り組まなかった	2	3	4	5 熱心に取り組んだ	計	*n*
観光	29.3	5.2	10.3	22.4	17.2	15.5	100.0	*58*
人文・ビジネス	54.1	11.2	5.9	8.9	6.6	13.3	100.0	*392*
国家資格等（福祉・保育）	61.3	7.5	6.3	11.3	5.0	8.8	100.0	*80*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	77.8	11.1	6.7	4.4	0.0	0.0	100.0	*45*
計	54.4	10.1	6.4	10.3	7.0	11.8	100.0	*575*

表４－６で，海外研修や留学の内容はどうであったのか４分野の特徴を見ると，「１か月程度の語学研修」は，「人文・ビジネス」が9.1％で高く，「海外旅行」は「観光」37.3％で突出している。また，「１か月程度の語学研修」，「３か月～半年の留学」，「半年以上の留学」の合計を見ると，「観光」8.5％，「人文・ビジネス」18.4％で，語学留学では「人文・ビジネス」が最も高い数値となっている。

海外経験・留学の制度は，「観光」が充実しており，学生の取組も「観光」が熱心に取組んでいる。また留学は「人文・ビジネス」が高く，この分野の特陵として捉えられる。「観光」は海外旅行，「人文・ビジネス」は語学留学という傾向が見られる。

表４－６　在学中の海外経験

（複数回答，％）

分　　野	1ヵ月程度の語学研修	3ヵ月から半年未満の留学	半年以上の留学	海外でのボランティアやインターンシップ	海外旅行	海外経験はない	計	*n*
観光	1.7	5.1	1.7	3.4	37.3	59.3	100.0	*59*
人文・ビジネス	9.1	6.5	2.8	2.8	17.9	71.2	100.0	*386*
国家資格等（福祉・保育）	2.5	0.0	2.5	4.9	8.6	85.2	100.0	*81*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	95.6	100.0	*45*
計	3.3	2.9	1.8	2.8	17.1	77.8	100.0	*571*

3-3. 資格実習（4分野）

資格取得のための実習への取り組みを４分野ごとに表４－７で見ると，「熱心に取り組んだ」（４＋５）は，「観光」54.2％，「人文・ビジネス」42.2％，「国家資格（福祉・保育）」76.5％，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」88.9％であった。「熱心に取り組んだ」(5) は国家資格（栄養士・管理栄養士）が80.0％で突出して高い。「熱心に取組まなかった」（１＋２）をみると，「人文・ビジネス」21.6％で４分野の中で最も高い。さらに，「経験がない」は「人文・ビジネス」が14.5％と他の分野に比べ高い。

表４－７　資格取得

（%）

分　　野	経験がない	1 熱心に取組まなかった	2	3	4	5 熱心に取組んだ	計	*n*
観光	3.4	5.1	8.5	28.8	25.4	28.8	100.0	*59*
人文・ビジネス	14.5	9.4	12.2	21.8	22.1	20.1	100.0	*394*
国家資格（福祉・保育）	1.1	3.7	6.2	12.3	33.3	43.2	100.0	*81*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	2.2	0	4.4	4.4	8.9	80.0	100.0	*45*
計	5.3	4.6	7.8	16.8	22.4	43.0	100.0	*579*

3-4. アルバイト（4分野）

アルバイトの取り組み状況は，表４－８に示すように「熱心に取り組んだ」（４＋５）は，「観光」が64.4%，「人文・ビジネス」は59.7%，「国家資格（福祉・保育）」56.3%，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」66.6%であった。アルバイトに関しては，「観光」と「国家資格（栄養士・管理栄養士）」の２分野で６割を超えてはいるが大きな差は見られない。

表４－８　アルバイト

分　　野	経験がない	1 熱心に取組まなかった	2	3	4	5 熱心に取組んだ	計	*n*
観光	5.1	3.4	6.8	20.3	22.0	42.4	100.0	*59*
人文・ビジネス	5.8	5.3	6.6	22.5	24.8	34.9	100.0	*395*
国家資格（福祉・保育）	7.5	7.5	2.5	26.3	21.3	35.0	100.0	*80*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	8.9	2.2	8.9	13.3	33.3	33.3	100.0	*45*
計	6.8	4.6	6.2	20.6	25.4	36.4	100.0	*579*

3-5. WIL 変数の合成×分野

本調査では，「インターンシップ」，「資格実習」，「専門と関連するアルバイト」を，WIL の枠に入れ，「専門と関連しないアルバイト」，「就業体験なし」を比較として分析する。なお，大学の「専門と関連するアルバイト」は，学生が様々な気付きを得る点では一定の評価を与えることができるが，その位置付けについては検討を要するということを踏まえている。

インターンシップ経験は表４－９が示すように，「観光」が18.3%，「人文・ビジネス」15.7%，「国家資格（福祉・保育）」7.4%，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.4%であり，「観光」「人文・ビジネス」が高く，国家資格系２分野は低い。「資格実習」は，「国家資格（福祉・保育）」74.1%，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」86.7%で他の２分野に比べ非常に高い値を示している。「専門関連アルバイト」は「国家資格（福祉・保育）」が19.8%で高め，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は8.9%で低めであった。「専門非関連アルバイト」は全体的に高く，「国家資格（福祉・保育）」が71.6%であるが，他の３分野は８割を超えて経験している。つまり，多くの学生が専門に関連しないアルバイトを経験しているということになる。

表４－９　インターンシップ，資格取得実習などの職業統合的学習（WIL）経験

（複数回答，%）

分　　野	インターンシップ	資格実習	専門関連アルバイト	専門非関連アルバイト	就業体験なし	計	*n*
観光	18.3	28.3	13.3	80.0	1.7	*100.0*	*60*
人文・ビジネス	15.7	16.2	12.9	81.1	4.3	*100.0*	*396*
国家資格等（福祉・保育）	7.4	74.1	19.8	71.6	3.7	*100.0*	*81*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	4.4	86.7	8.9	82.2	2.2	*100.0*	*45*
計	*13.9*	*30.9*	*13.6*	*79.7*	*3.8*	*100.0*	*582*

４．インターンシップ，海外経験と進路意識・就業観

4-1. インターンシップと進路意識・就業観

インターンシップ経験は就業意識にどのように影響したかを表４－10でみるが，インターンシップ経験者のサンプル数が82であるため一傾向であることは否めないことを踏まえて分析をする。アンケートは５件法の平均値で，「卒業後の進路を選択する上で役に立った」は，「観光」3.91，「人文・ビジネス」3.44，「国家資格（福祉・保育）」3.17，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が4.50で，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」が最も高いが，サンプル数が少ないため，傾向を捉えることができない。先に示したように，観光は専門分野と関連があるインターンシップを経験する割合が高く，進路選択に役立ったと回答している割合も高い。

「自信を持って積極的に行動できるようになった」は，「観光」3.60，「人文・ビジネス」3.63，「国家資格（福祉・保育）」3.67，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」4.00であった。

「働くことの楽しさ，厳しさがわかった」の全体平均は4.01で最も高い数値を示した。「就職したい業界が明確になった」は，全体平均値3.33で調査項目の中で最も低かった。「自分の適性に気づくことができた」は，全体平均3.63で，分野では「観光」が4.20で最も高かった。「卒業時の職業選択の参考になった」は，全体平均3.77，分野では「観光」4.00で高かった。

観光の学生は，インターンシップが適性に気づき職業選択への機会となり就業観育成に効果が見られる傾向がうかがえた。

表４－10　インターンシップと進路意識・就業観

（上段は平均値，下段は *n*）

分　　野	インターンシップは卒業後の進路を選択する上で役に立ちましたか	自信をもって積極的に行動できるようになった	働くことの楽しさ，厳しさがわかった	就職したい業界が明確になった	自分の適性に気づくことができた	卒業時の職業選択の参考になった
観光	3.91	3.60	3.90	3.80	4.20	4.00
	11	*10*	*10*	*10*	*10*	*10*
人文・ビジネス	3.44	3.63	3.97	3.24	3.48	3.73
	63	*62*	*63*	*63*	*63*	*63*
国家資格等（福祉・保育）	3.17	3.67	4.33	3.50	4.17	3.50
	6	*6*	*6*	*6*	*6*	*6*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	4.50	4.00	5.00	3.50	4.00	4.50
	2	*2*	*2*	*2*	*2*	*2*
計	3.51	3.64	4.01	3.33	3.63	3.77
	82	*80*	*81*	*81*	*81*	*81*

4-2. 海外経験と進路意識・就業観

海外経験が進路意識・就業観にどのような影響を与えたかを分野別平均値（表４－11）で見ると，「海外での学習経験は卒業後の進路選択をする上で役立った」が，「観光」3.40，「人文・ビジネス」3.86，「国家資格（福祉・保育）」3.29であった。「自信を持って積極的に行動できるようになった」は，「観光」3.35，「人文・ビジネス」が3.86，「国家資格（福祉・保育）」3.91で，全体平均が3.78であった。

海外経験が進路意識・就業観に与える影響とインターンシップのそれらへの影響を比較すると，「卒業後の進路選択」に関しては，インターンシップが3.77，海外経験が3.75とほぼ同じ，「自信を持って行動」はインターンシップが3.64，海外経験が3.78で海外経験が若干高めであった。また，「自分の適性」については，インターンシップが3.63，海外経験が3.41で，インターンシップが若干高めであった。

表４－11　海外経験と進路意識・就業観

（上段は平均値，下段は *n*）

分　　野	海外での学習経験を振り返っての評価	海外での学習経験は卒業後の進路選択をする上で役立ちましたか	自信を持って積極的に行動できるようになった	自分の適性に気づくことができた	多文化・異文化に関する理解や関心が深まった	日本に対する理解や関心が深まった	外国語の能力が向上した
観光	3.60	3.40	3.35	3.04	4.35	3.96	2.52
	5	*5*	*23*	*23*	*23*	*23*	*23*
人文・ビジネス	3.53	3.86	3.86	3.44	4.55	3.94	3.50
	43	*43*	*107*	*107*	*107*	*107*	*107*
国家資格等（福祉・保育）	3.14	3.29	3.91	3.91	4.64	4.27	3.09
	7	*7*	*11*	*11*	*11*	*11*	*11*
国家資格（栄養士・管理栄養士）	0	0	3.50	3.50	5.00	5.00	2.50
	0	*0*	*2*	*2*	*2*	*2*	*2*
計	3.49	3.75	3.78	3.41	4.53	3.99	3.29
	55	*55*	*143*	*143*	*143*	*143*	*143*

4-3. 海外経験と満足度の関係

海外経験と満足度の関係を表４－12で見ると，統計的に有意ではないが，「海外でのボランティアやインターンシップ」，「半年以上の留学」，「３ヶ月から半年未満の留学」などの経験が満足度を上げる要因になり得ることがうかがえる。特に，ボランティアやインターンシップなど目的が明確な体験は，誰かのために役立つことや，自分が認められ評価を得られる体験であり，満足度を高める傾向にあることがわかる。１ヶ月程度の短期間語学研修が低くなっていることから，海外経験はある程度の時間の長さが影響することも考えられる。

表４－12　海外経験と満足度

	平均値	標準偏差	*n*
海外でのボランティアやインターンシップ	4.38	0.96	*13*
半年以上の留学	4.30	1.25	*10*
３ヶ月から半年未満の留学	4.25	0.72	*20*
海外旅行	4.02	0.97	*66*
１ヶ月程度の語学研修	3.83	0.87	*24*
海外での経験はない	3.87	0.93	*303*

５．職業統合的学習（WIL）と満足度

WIL 体験は，総合的に大学に対する満足度にどのような影響を与えているのかを分析してみる。満足度は「とても不満である」(1)，「とても満足している」(5) の５件法で回答したものを４分野の WIL 体験「インターンシップ」，「資格実習」，「専門関連アルバイト」と，「専門非関連アルバイト」，「就業体験なし」の相関関係を表４－13で見てみる。

「資格実習」体験の満足度平均値は，「観光」4.27で最も高いが，他の３分野においても高く，全体平均が4.14であった。「資格実習」体験者の大学に対する満足度については，有意に影響していると見られ，大学生活への満足感を与える要因となり得る傾向にある。

「インターンシップ」については，度数が少ない中で，「国家資格（福祉・保育）」が4.80と高く全体平均も3.91で高めであった。

「専門関連アルバイト」は，「人文・ビジネス」が4.03で満足度が高く，平均値も4.02で「資格実習」経験に次いで満足度を上げる要因となり得る可能性を示している。最も体験者が多かった「専門非関連アルバイト」経験は，「国家資格（福祉・保育）」において4.34と高い満足感が見てとれるが，全体平均は3.89で最も平均値は低く，「資格実習」や「専門関連アルバイト」，「インターンシップ」よりも満足度に対して影響は低めの傾向にある。

また，「就業体験がない」は，全体平均が3.74で，その他の経験に比して，満足感が若干低く，何も経験しないことは満足度を上げる要因に影響しない傾向が見て取れる。

表４－13　職業統合的学習（WIL）の分野別満足度　（上段は平均値，下段は *n*）

区　　分	観　光	人文・ビジネス	国家資格等（福祉・保育）	国家資格（栄養士・管理栄養士）	計
資格実習	4.27	4.02	4.24	4.11	4.14
	11	*43*	*41*	*18*	*113*
インターンシップ	3.25	3.87	4.80	4.00	3.91
	4	*46*	*5*	*2*	*57*
専門関連アルバイト	3.80	4.03	4.00	5.00	4.02
	5	*34*	*10*	*1*	*50*
専門非関連アルバイト	3.74	3.82	4.34	4.00	3.89
	35	*236*	*41*	*16*	*328*
就業体験なし	3.00	3.54	4.50	3.63	3.74
	1	*13*	*2*	*16*	*42*

６．職業統合的学習（WIL）の効用

WIL 経験の有無が，大学への満足度や就業観にどのように影響するのかを，５件法の平均値で見てみる。表４－14で示すとおり，「インターンシップ」経験の有無は，「総合的満足度」に影響はみられないが，「経験有」が「将来のキャリアを展望するうえで」が4.17で高い。また「資格実習」の「経験有」を見ると「総合的満足度」4.14で高く，さらに「仕事に必要な基礎を身につける上で」4.15，「将来のキャリアを展望する上で」4.12と高く，「資格実習」の経験は就業観に影響を与える傾向がうかがえる。

表４－14　職業統合的学習（WIL）の効用

（上段は平均値，下段は *n*）

区　分	経験の有　無	総合的に振り返って本学に対する満足度	就職先を見つける上で	仕事に必要な基礎を身につける上で	仕事で一人前になる上で	仕事で必要な学習を続けていく上で	将来のキャリアを展望する上で
インターンシップ	有	3.91	3.99	3.76	3.66	3.97	4.17
		57	*76*	*74*	*76*	*75*	*76*
	無	3.90	3.50	3.49	3.37	3.37	3.84
		354	*468*	*467*	*464*	*467*	*468*
資格実習	有	4.14	4.04	4.15	3.99	3.88	4.12
		113	*161*	*160*	*160*	*161*	*161*
	無	3.81	3.37	3.27	3.17	3.27	3.78
		298	*383*	*380*	*380*	*381*	*383*
専門関連アルバイト	有	4.02	3.89	3.90	3.62	3.81	4.10
		50	*72*	*71*	*71*	*72*	*72*
	無	3.88	3.52	3.47	3.38	3.40	3.85
		361	*472*	*470*	*469*	*470*	*472*
専門非関連アルバイト	有	3.89	3.54	3.46	3.39	3.42	3.87
		76	*428*	*426*	*425*	*426*	*429*
	無	3.95	3.72	3.81	3.53	3.59	3.97
		328	*107*	*106*	*106*	*107*	*106*
就業体験	有	3.91	3.60	3.54	3.43	3.48	3.90
		395	*522*	*519*	*518*	*520*	*523*
	無	3.91	2.82	3.23	2.91	2.86	3.52
		16	*22*	*22*	*22*	*22*	*21*

次に，「専門関連アルバイト」の「経験有」をみると，「総合的満足度」4.02，「将来のキャリアを展望する上で」4.10で高くなっている。「専門非関連アルバイト」は経験の有無に関係なく4.00を超えるものはなく，「専門非関連アルバイト」経験の有無が就業観に影響を与えている傾向は低い。「インターンシップ」，「資格実習」，「専門関連アルバイト」経験の有無の差を見ると，すべてにおいて「経験有」が「経験無」を上回る数値を示し，経験が有ることが，無いよりも満足度や就業観に影響があることがわかる。

さらに「就業体験」の有無を見ると，「経験無」が「就職先を見つける上で」2.82，「仕事で一人前になる上で」2.91，「仕事で必要な学習を続けていく上で」2.86と２点台を示し，就業経験が有る者と比べ有意差が見られた。

７．小　括

7-1. 国家資格系分野と WIL 経験

分野別の特徴として，「国家資格（福祉・保育）」，「国家資格（栄養士・管理栄養士）」は，教育課程と関連する「資格実習」に取り組むため，制度の充実，熱心に取組む姿勢では高い数値を示し，教育課程と関連する実習の教育上の効用がうかがえた。また第３章では，この２分野は成績が上位ではないのに満足度が高いという結果が出ており，これの分野においては，授業での資格への取組，それに関連する「資格実習」経験，つまり WIL 経験が総合的満足度を規定する要因になり得ることがわかる。

7-2.「観光」，「人文・ビジネス」分野と WIL 経験

この２分野は，インターンシップ等の就業制度の充実はあまり高くはなく，取組もあまり熱心では

ない傾向にあった。特に「人文・ビジネス」は，インターンシップなどの就業制度の充実も、熱心な取組も４分野で最も低く，さらにインターンシップは専門分野とは関連していない。「人文・ビジネス」分野は，学修している専門の教育が職業に直接結びつくものは少なく，教育とインターンシップを関連させることが難しい事情にあるものと推測できる。国家資格系の分野の学習や「資格実習」への取組の熱心さを鏡にすると，この分野における専門と関連する WIL の検討が必要であり，それがこの分野の社会への接続問題を改善する重要な点であると考える。

次に，「観光」分野の特徴として，専門と関連するインターンシップを経験している割合が最も高かったが，教育内容が観光という専門性を持っており，職業と関連する教育であるため，旅行，航空，ホテル等の大学での学修にダイレクトに結びつくインターンシップが展開されていると考えられる。また，海外旅行経験者も多かったが，WIL の概念と適合しているかは今回の調査ではわからなかった。語学留学という観点だけではなく，観光という観点からの研修であれば WIL としてその効果を上げるものと考えられる。

7-3. WIL 経験と社会への接続

「資格実習」経験は，仕事についての視野，理解への影響が大きく，「インターンシップ」経験は働く意義，「専門分野に関連するアルバイト」は，仕事の厳しさを知る機会となっており，就業観に影響していることがわかり，WIL がある程度の効果を生み出す傾向が見られた。

「専門関連アルバイト」は「人文・ビジネス」分野において満足度と相関関係を示した。「インターンシップ」や「資格実習」といったものが，専門と関連することが難しいこの分野においては，「専門関連アルバイト」は，教育の延長線上に位置づけて考えてもよい現状を把握した。

今回の分析から，専門と関連する WIL が学生の意欲を喚起し，学習に向かわせ，大学への満足度を上げる規定要因となる可能性を秘めていることがわかり，今後，WIL という概念をもとに形成されたカリキュラムで，専門と関連したインターンシップの開発，資格実習や専門関連アルバイトの在り方や方法を検討してみる必要性がある。

〈注〉

（１） 文部科学省（2013）「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」平成25年８月，（体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議）

（２） 吉本圭一・稲永由紀編（2013）『諸外国の第三段階教育における職業統合的学習』高等教育研究叢書122，広島大学高等教育研究開発センター

（３）「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」平成25年８月，（体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議，文部科学省）